

Neuro2026 参加レポート

岐阜大学 応用生物科学部 生物化学研究室

橋本美涼

令和8年7月30日～8月2日に神戸で行われた NEURO2026（第49回日本神経科学大会、第69回日本神経化学学会大会、第36回日本神経回路学会大会合同大会）に参加しました。今回、LEGEND Travel Award 2026のサポートをいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。今後の研究に向けた多くの考察を得ることができましたので、ここにご報告いたします。



まず、7月30日に「Role of protein arginine methyltransferase 1 (PRMT1) in cerebellar granule cell development」という題目で一般口頭発表を行いました。この研究は、科研費若手の支援を受けて実施したもので、アルギニンメチル化酵素 PRMT1 が小脳顆粒神経の発達および機能に重要であることを見出したものです。本テーマについて、2023年の同学会で指導学生が最初の発表を行った際、マウス行動解析必要性を指摘されていましたがすぐには実現できませんでした。しかしその後、さまざまな研究機関や研究者とのご縁に恵まれ、ついに網羅的行動解析を実施することができました。その成果を Neuro2026 で発表できたことを大変嬉しく思っています。また、私の研究の考え方に共感し、ともに研究を進めてくれた多くの卒業生にも深く感謝しています。このように、多くの方々との出会いや協力によって専門的な解析を実現できたこと、そしてその過程で得られた実験データは、研究者として貴重な財産となっています。

このような経験を経て、人とのつながりの重要性を強く認識した上で参加した NEURO2026 では、今後の研究につながる新たな出会いや着想を数多く得ることができました。新しい研究の方向性や技術を学ぶため、自身にはなじみの薄かった神経回路の発表にも積極的に参加し、その重要性や最新の研究動向について理解を深めました。「小脳の非運動機能」に関するシンポジウムには世界各国から著名な神経科学者が集い、小脳が社会性や報酬行動の回路に果たす役割に関する多くの学びを得ました。また、ALS 疾患モデルマウスを用い、シングルセル解析によって運動ニューロンの異常と免疫活性化との関連を分子レベルで解明する研究発表にも参加し、最先端の解析技術の活用方法や着眼点の面白さに感銘を受けました。

ポスター会場は三日間を通して熱気に包まれ、活発な議論が繰り広げられていました。私は、以前の学会で知り合った先生、共著者を通じてつながりのあった先生、さらには同じ研究分野でありながらこれまで十分に交流する機会がなかった先生等にも積極的に話しかけ、研究全般について有意義なディスカッションを行うことができました。予想以上に多くの研究者と交流する機会に恵まれたため、二日目には名刺を切らしてしまったことが、嬉しい反省点となりました。

今回の LEGEND Travel Award 2026 をいただきました BioLegend 株式会社様ならびに Tomy Digital Biology 株式会社様に心より感謝しています。本当にありがとうございました。本学会で得られた知見や人的ネットワークを今後の研究に活かし、新たな成果の創出につなげていきたいと考えています。